

【シリーズ後藤新平人脈考⑤】

3人の疊屋



令和3年度第2回企画展「第7代東京市長就任100周年～自治と教育と衛生～」と同時併催している、標記人脈考⑤「3人の疊屋」を紹介します。これまで2年間に亘り、個別に紹介してきた3人を東京市助役として一挙公開。

新平は市政刷新の第一歩として、人事行政から手をつけた。まず永田秀次郎、池田宏、前田多門の3人を助役に推薦した。新平はこの3人の助役のことを「疊」とっていた。その理由を人が訊くと、「それはこうさ。ね、俺は市のことは何も判らん。だから3人の助役の言うことを聞いて、3人がよいと言えば、それに判をつくんだ。3つの田の下に宜と書くのさ、だから疊という字になるじゃないか、アハハハハハ。」とうれしそうに笑った。また人が何か面倒なことを持ち込むと、「俺は解らんが、うっかり判をつくと疊屋に叱られるからな。」と喋ってトボけていた。そうして事務は一切3人に任せきりであった。(正伝後藤新平より)

令和3年度 第二回企画展

第七代東京市長就任百周年

「自治と教育と衛生」

【併催】シリーズ後藤新平人脈考⑤「3人の疊屋」

開催期間 令和3年7月16日(金)～10月17日(日)

【永田 秀次郎】 <後藤新平が後事を託した永田>

- ・新平後の第8代・第14代東京市長、新平逝去後の第4代拓殖大学学長、その後、第18代鉄道大臣に就任するなど、後藤新平の後事を託される。
- ・新平の衣鉢を忠実に継ぎ、「士は己を知る者のために死ぬ」と、継承に誇りをもっていったことが推察できる。

【俳人 永田青嵐】

◇ 蓮の実の 飛ぶと見て 心定まりぬ
(三重県知事から警保局長へ)

◇ 行秋や 止まりし儘の 屋根時計
(震災で止まった時計を詠む)

◇ 震災忌 我に古りゆく 月日かな
(青嵐辞世の句)

【池田 宏】 <都市計画を牽引>

- ・ヨーロッパ遊学し、ドイツの都市計画制度に感銘
- ・内田嘉吉、佐野利器、渡辺鏡蔵、藤原利雄、阿南常一らと都市研究会結成。会長に後藤新平を戴く。月刊誌「都市公論」発刊。
- ・いわゆる東京改造「八億円計画」作成に参画。
- ・関東大震災の時、内務省社会局長官から再度新平に引き抜かれ計画局長。復興計画案作成。

【都市公論(T8.12)】 【東京市職制分課規定改正要領】

【前田 多門】 <新渡戸四天王>

- ・寺内内閣の後藤新平内相秘書官。池田宏の後を継いだ第2代内務大臣官房都市計画課長。
- ・東京市政調査会の創立に参加。
- ・新平東京市長により三助役の一人に抜擢。
- ・鶴見祐輔・田島道治・岩永裕吉と共に「新渡戸四天王」と呼ばれた。

【新平宛書翰(市政調査会朱罫紙6枚ペン筆)】

【夏休み「新平小検定」実施中(市内小学5・6年生対象)】



今年も「新平小検定」を実施しています。新型コロナウイルスの関係で学校プールにも入れないでいる子ども達が、挑戦しに訪れて来ています。10問解いて満点になると、「認定証」と右の「キーホルダー」をプレゼントします。去年の満点者は200人。さて、今年は何人になるでしょう。

